ローヤルルブニュース

Ｎｏ.１４７　　発行　ローヤル油機株式会社　２００６年９月４日

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4　TEL.0246-32-6657　FAX.0246-32-6658
Ｅメールアドレス　GSP00013@nifty.com　　HPアドレス　http://homepage1.nifty.com/loyal/

【モラブ・アロイ ７７７ＥＳグリース No.1,2】　―カストロール―

１．リチュームグリースに二硫化モリブデンを配合した**強力万能極圧型**グリースです。
２．鉄鋼・鉱業・製紙・化学の**低速高荷重のベアリング・ブッシュ・スライド部**の潤滑に最適です。
３．使用温度範囲：**－20～120℃**　　**防錆力・シール性・せん断安定性**に優れる。ＩＨＩ指定。
４．荷姿：**400g＊20 本**　16.8kgP/L　190.5kgD/M

高崎物語　7

父は四人姉弟の末っ子だったが、伯母が一番上であいだに二人の男の兄弟がいた。

祖父が亡くなって長兄が染物問屋を継いだときにはすでに家業は傾いていて、伯母が祖母を引き取って面倒を見なければならない状況にあった。伯母は、東京の人に嫁いで二人の子供を儲けたが、別れて小学校の教師をしながら子供と祖母の四人で暮らしていた。どうして別れたのかは、子供の私たちに分かる筈もなかったが、従姉妹も私たちも同じような境遇にあることを子供心に感じていた。

祖母は、母親のいなくなった四倉の家に来て、私たちの面倒を見てくれた。

私たちは、祖母が大好きだった。祖母は、思慮深くとても優しい人だった。悲しみを悲しみとして受け入れ、それを乗り越えていく勇気を私たちに教えてくれた。後年、祖母が書いた古い日記を見せてもらう機会があった。和紙を帳綴じにしただけの粗末なものだったが、筆で黒々と書かれた素朴な文字は、四人の子供に対する細やかな愛情がそこはかと伝わる穏やかなものだった。

祖母が四倉に来て数ヶ月が過ぎた頃のことだった。理由は分からないが、父は地元の商業高校を卒業と同時に勤めた石油販売会社・四倉支店の職を失いかけていた。

祖母は、息子家族の行く末が心配だったに違いない。私たちを目の前に座らせて話した。

「ターボもミーコも、よーく聴くんだよ。もしもお父さんが、会社を辞めさせられたときは田んぼに行って芹を摘んでくるんだ。それをきれいに洗って藁で結んで籠に入れ、『セリーセリ、芹はいらんかねぇ――』って、大きな声で街の中を売り歩くんだ。きっと買ってくれる人がいる。そうすれば、生活に困ることもないから何も心配しなくていい」

祖母は、それを私にやってみろという。私は、祖母の言うとおり大きな声でやってみた。

「セリーセリ、芹はいらんかねぇ――」

「うん、上出来だぞ。素直な気持ちでやれば、人は必ず買ってくれる」

―次号に続く。

『 水戸線・下館 Ⅱ 』

☆　あとがき　☆

先日、ある人が事務所を訪ねてきました。久しぶりに会う彼は、歳はとられたが元気そうでした。携えてきた菓子折をテーブルに置きながら「長いあいだありがとうございました」といって、白い封筒を私に手渡しました。封筒には、5 万円が入っていました。10 数年前にお貸ししたお金の残金でした。
わたしは、お金が彼の家族の為になれたことと、とても清々しい気持ちになれたことに感謝した。